

発掘ニュース

第 8 号

昭和 59 年 10 月 8 日

発行 財団法人 いわき市教育文化事業団

砂屋戸荒川館

荒川館の発掘調査は、今年（今年）の5月21日（月）から始まり、10月31日（水）までの予定で行なわれます。荒川館は、いわき市平大駅（平大駅）の北側にあり、砂屋戸地内にある昔のお城がたつた所です。平大駅から鹿島街道を小名浜に向かると、ふた分ほど車を走らせると、谷川瀬をすぎたあたりの右手に、はだか山を見つかることが出来ます。地名をどうも、砂屋戸荒川館と呼んでいます。なぜ、発掘調査を行なうかという点、今度、この山を削って宅地を造成することになったからで、お城の跡が、まるまる、なくなってしまうので、歴史的遺産のために、発掘調査を行なう、写真や図面をとり、記録として残すのです。

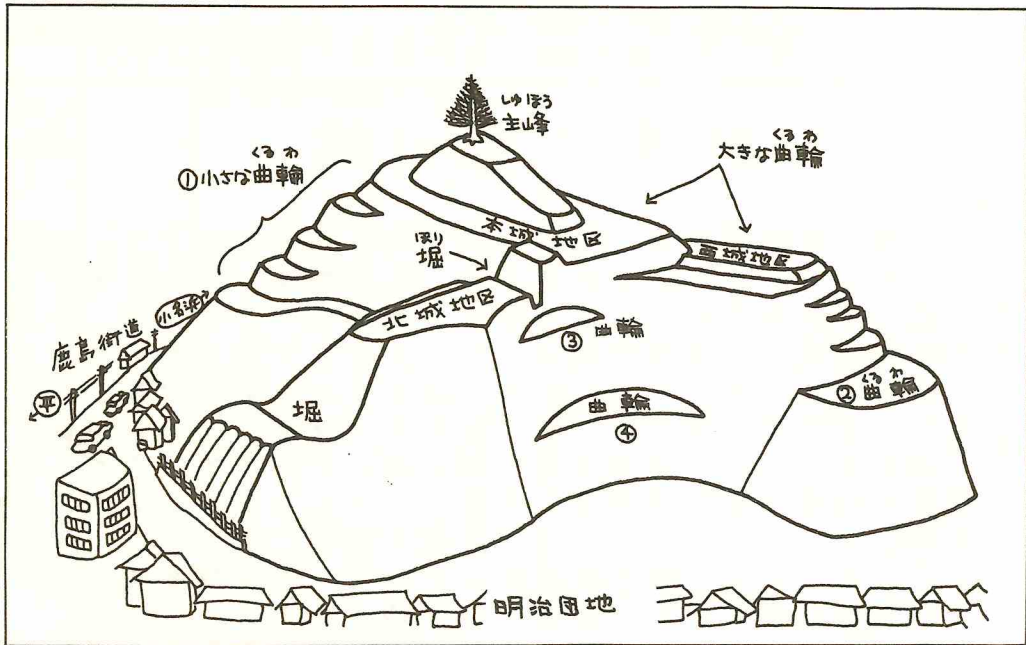
発掘調査は、四倉自工株式会社から市教育委員会を通じて（財）いわき市教育文化事業団が委託を受け、行なっています。調査面積は、約30000㎡ですが、実際に発掘する広さは、平大所を選んで約10000㎡あまりです。

今回の発掘ニュースでは、あまり知られていない城の歴史と中世のお城の作り方や構成（縄張りーなわばり）を中心にお話しましよ。

とじておきましよう



荒川館と城の歴史



荒川館の構成（縄張り）



本城地区の段状曲輪(くるわ).



本城地区と北側の曲輪との間の堀

中世の城の作り方と構成

中世の城は、一般には、ふだん住んでいる館と、いざ戦争になったときに、たてこもる山城(砦の城)とに分れています。そして、これらは、山を削ったり、堀をほったり、土をもったりして作ります。

荒川館(砦城)は、大小の平地(曲輪)と堀によって構成(縄張り)されています。①や②の曲輪は山を削って作っています。しかし、③や④の曲輪では、上で削った土を下に落とし土盛りすることにより作られています。こうして作った曲輪には、見張り台(やぐら台)や倉庫などを建て、戦争に備えます。

歴史年表

時代	西暦	いわきのごきごと	日本のごきごと	市内の遺跡と文化財
鎌倉	1192	谷戸(作)の開発する 岩城氏地頭となる	鎌倉幕府が2さる	1252 柴竹供養塔 長谷寺 1318 十一面観音
		地頭と荘官(預所)の 争いが頻発する	元寇	
南北朝	1333	内乱にいわきの武士が 参戦する	南北朝の内乱はじまる	荒川館 1361 柴竹供養塔 大館
	1404	中小の領主の対立や連合 がさかんになる 岩城氏岩城郡主となる	足利義満金閣寺をつくる 勘合貿易開始	
室町		岩城氏がいわき地方を 統一し他領へ進攻する	応仁の乱	龍清寺
		岩城氏戦国大名となる	鉄砲伝来	
戦国			織田信長朝倉氏を滅ぼす	
	安土 桃山	1573	佐竹氏によるいわき領の検地	豊臣秀吉天下を統一する
江戸	1603	鳥居氏が平城主となる	関ヶ原の戦い 江戸幕府の開始	

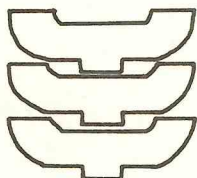


とじておきましょう



◎お知らせ

10月21日(日)、午前10時から現地にて、遺跡の説明会を行います。どうぞお越し下さい。



(文化財のシンボルマーク)

編集

(財)いわき市教育文化事業団
(電話) 0246-22-5431
内線 254・256

荒川館遺跡
調査事務所
(電話) 0246-22-5135